

野生鳥獣救護センターだより

〈2006/4/1～2007/3/31〉



野生鳥獣救護センターでは、京都市と京都府南部の市町村で、救護された野生の鳥類とほ乳類の救護活動を行っています。

京都府北部(亀岡市以北)地域は、福知山市の三段池公園動物園が受入施設になります。

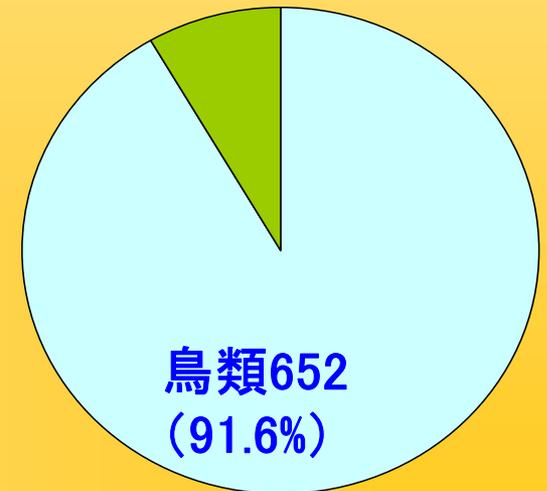
救護された動物たち

平成18年度に救護された動物は、鳥類が56種652点（91.6%）、ほ乳類が8種60点（8.4%）の合計712点でした。ただし、前年度から鳥類44点、ほ乳類3点を引き継いでいるため、実際は759点になります。



* 救護センター入り口
(岡崎道と二条通交差点東側にある門)

ほ乳類60(8.4%)



救護された地域

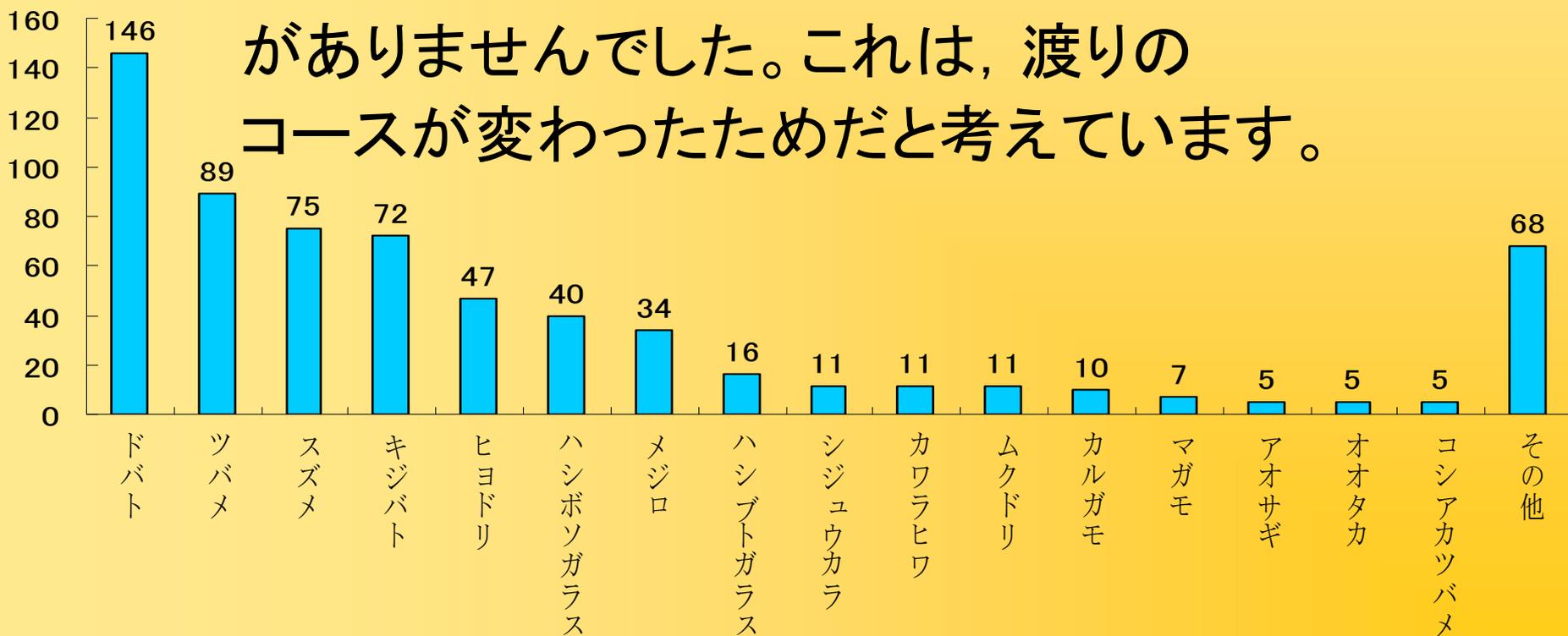
京都市内での救護が90%を占めている。そして、センターのある左京区内での救護が21.3%と最も多く、次いで伏見区の10.3%となっている。また、京都府南部では宇治市がもっとも多く2.5%となっている。



救護された鳥たち

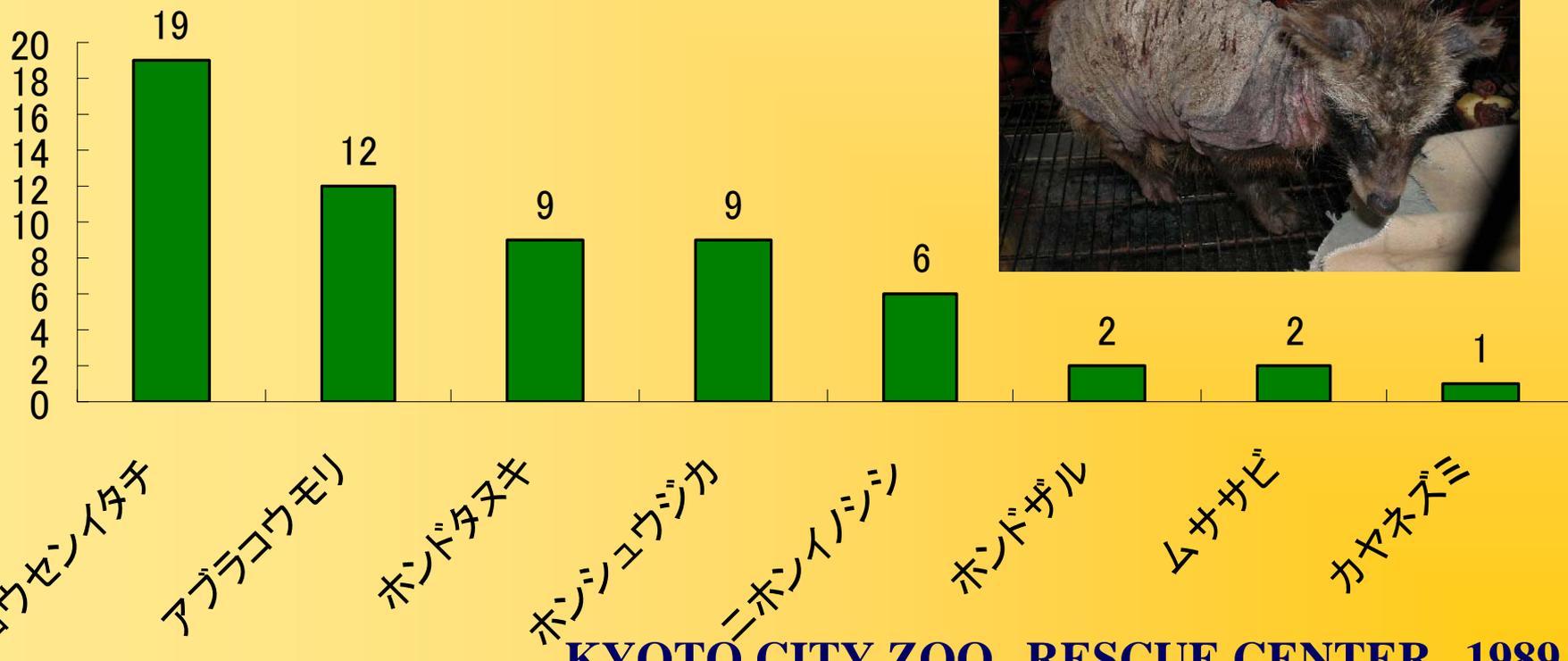
上位7種は毎年TOP10に入るほど救護されています。今年の特徴は、ハシブトガラスが50%増（昨年8）、ムクドリが65%減（昨年31）であったことです。

なお、毎年救護されていたオオミズナギドリの救護がありませんでした。これは、渡りのコースが変わったためだと考えています。



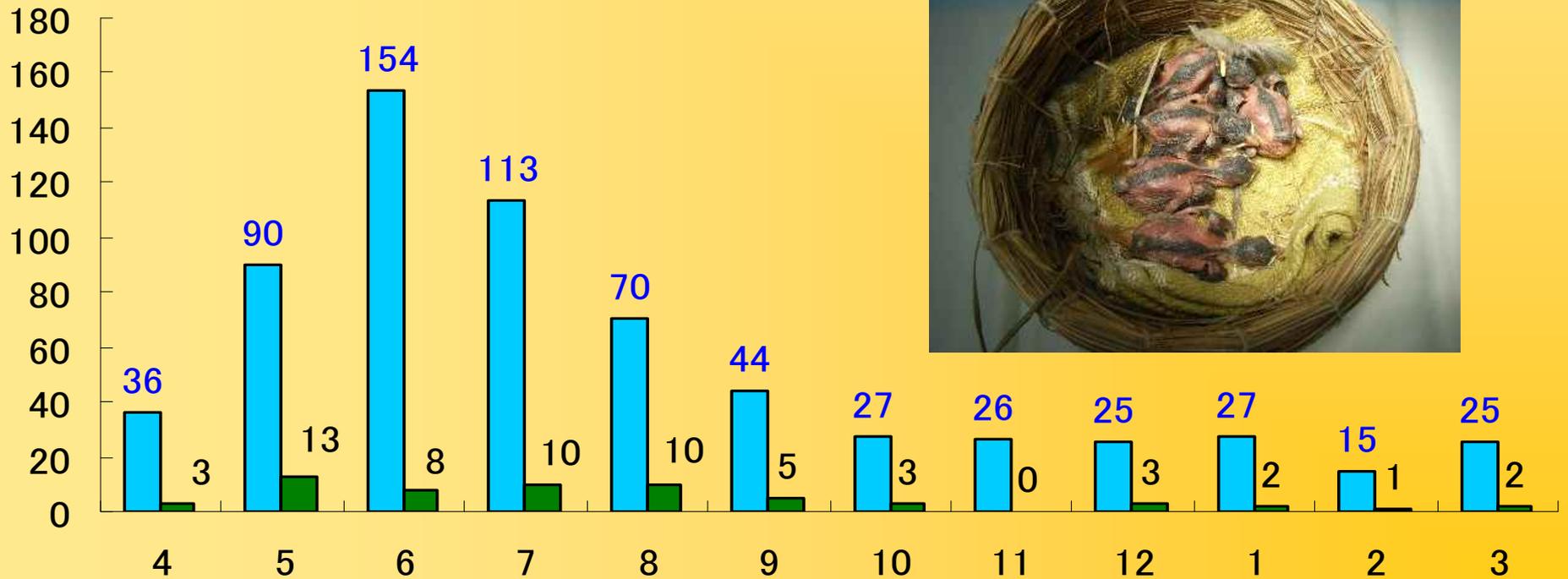
救護された獣たち

今年はタヌキの救護数が少なかった。これは、疥癬症(かいせんしょう, 皮膚病の一種)のまん延により生息数が減少したためではないかと考えています。



月別の救護数

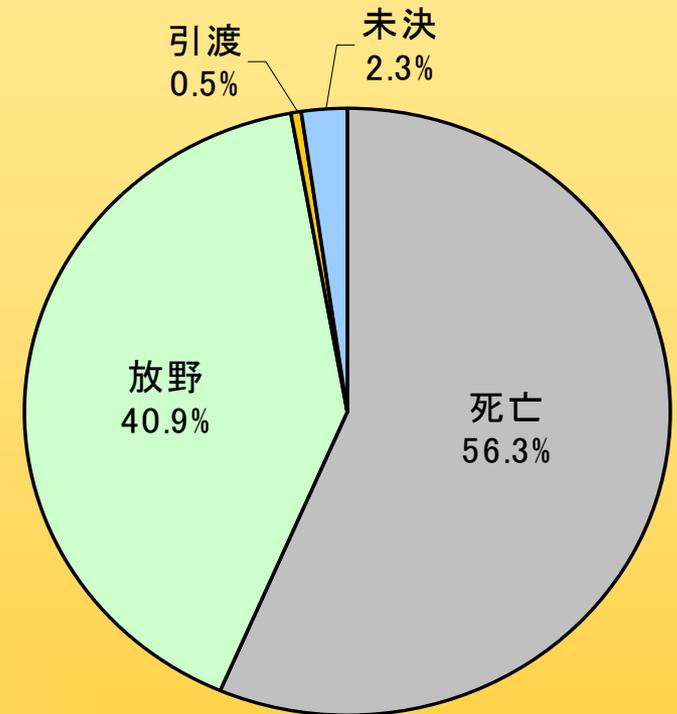
毎年5月から8月の救護数が多くなります。これは、繁殖期でヒナの救護数が増えるためです。なお、巣立ち直後はあまり上手く飛ぶことが出来ないため、誤って救護されることが少なくありません。しかし、近くで親が見守っていますから、ヒナを誘拐しないでください。



救護された動物たちのその後

平成18年度中に救護された712点および引継いだ47点の合計759点の動物のうち、301点(約40%)を野生に戻しました。

しかし、414点は死亡しており、その原因は衰弱(48.9%)と外傷(25.2%)「交通事故や窓ガラスへの激突」が高い割合を占めています。



* 頭部打撲や極度の衰弱による神経症状の際に見られる姿勢。

飼育ボランティア制度

救護された動物のなかには、元気になっても自然に返せない場合があります。その場合、飼育していただける方を募り、お引渡しする制度があります。去年は4羽が飼育ボランティアさんとめぐり合うことができました。



ホンドフクロウ



ドバト



オオルリ



コノハズク

飼育ボランティア募集中

飼育ボランティアの条件

原則として京都府民の方。

学校や施設などでもかまいません。

愛情と責任を持って飼育していただける方。

動物にとって望ましい環境を提供していただけること。

他人に迷惑をかけずに飼育をしていただけること。

*** 興味のある方は、救護センターにご相談ください。**



←ヒヨドリ

平成19年8月9日救護

骨折のため左翼を失う

アオバズク→

平成19年6月25日救護

激突により右眼の視力を失う

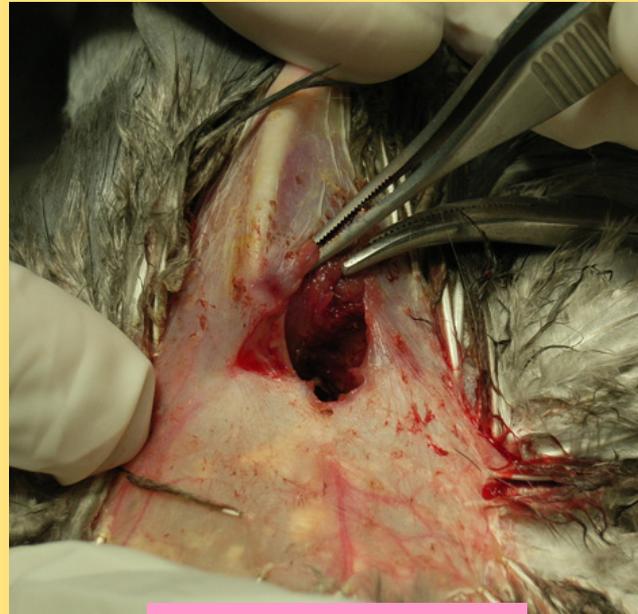


絶対ダメ！！

BB弾で撃たれたドバトが救護されました。幸い、大事に至らず、元気になり、自然に帰すことができました。



レントゲンによって
確認されたBB弾



麻酔下で摘出



被弾によると思われる
足の骨折



摘出したBB弾

気をつけましょう！

救護されたケースの中には、
人が気をつけることで防ぐ
ことができるものがあります。



テグスやビニールひもなどがからまり、
ゆびを失ってしまった。



粘着シートにくっついたイタチ。
へビや小鳥がくっつくこともあります。



問い合わせ先

京都府農林水産部森林保全課野生動物対策室
電話075-414-5022

京都市産業観光局農林部農業振興整備課
電話075-222-3352

京都市動物園
075-771-0210

